

2022年（令和四年） 8月26日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/4~8/10のNYMEX・WTI先物市場は、88.54~91.93ドルの範囲で推移した。

8月11日は、国際エネルギー機関(IEA)の8月月報で、2022年の石油需要が38万b/d上方修正されたことを好感し続伸した。9月限の終値は前日比2.41ドル高の94.34ドル。週末12日は、週末の持ち高調整、ドル高に伴う割高感、根強い景気後退懸念で、3日ぶりに反落した。シェルのメキシコ湾岸での供給障害発生が下支え要因。9月限の終値は前日比2.25ドル安の92.09ドル。週明け15日は、中国人民銀行の予想外の金利引き下げ・米ニューヨーク州の製造業景況指数の悪化など、世界的な景気後退懸念から続落した。イラン核合意再建交渉の先行き楽観観測も値下がり要因。9月限の終値は前日比2.68ドル安の89.41ドル。16日は、引き続き、世界的な景気後退懸念とイラン核合意の最終文書への期待に伴うイラン経済制裁の緩和観測から続落した。9月限の終値は前日比2.88ドル安の86.53ドル。17日は、先週末の米国石油在庫は原油・ガソリンともに大幅な取り崩し、米国原油の欧州向輸出も増加し4営業日ぶりに反発した。9月限の終値は前日比1.58ドル高の88.11ドル。18日は、前日の米国石油在庫の減少・輸出の増加の発表を受け、先行き需給のタイト化観測から、続伸した。9月限の終値は前日比2.39ドル高の90.50ドル。週末19日は、ロシアが欧州向けガスパイプライン「ノルドストリーム」の点検のための停止を通告、また米国イラン核合意交渉の難航報道で続伸した。9月限の終値は前日比0.27ドル高の90.77ドル。週明け22日は、米国が積極的利上げを継続するとの観測から、景気後退懸念が増大し反落した。ただ、サウジのアブドゥルアジズ・エネルギー相のOPECプラスの減産を示唆する発言が底値を支えた。9月限の終値は前日比0.54ドル安の90.23ドル。23日は、前日のサウジ・エネルギー相の発言を材料に減産観測から、大幅に反発した。翌日の米国の石油在庫の減少観測も値上がり要因。この日から取引の中心限月となった10月限の終値は前日比3.38ドル

高の93.74ドル。24日は、引き続きOPECプラス減産観測で続伸した。先週末の米国石油在庫は原油が大幅減少、ガソリンがほぼ横ばいだった。10月限の終値は前日比1.15ドル高の94.89ドル。

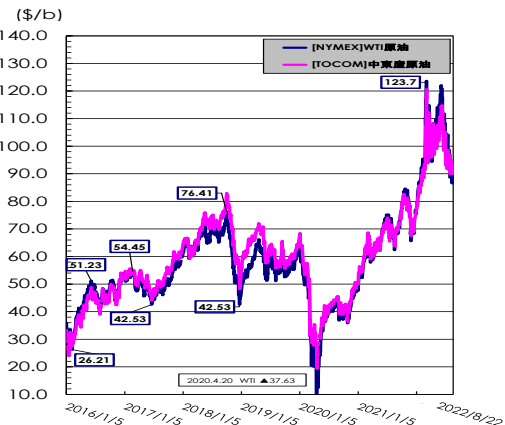
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月4日~10日の間、94.10~96.00ドルの範囲で推移した。8月12日99.10ドル、15日95.90ドル、16日92.80ドル、17日91.30ドル、18日91.70ドル、19日94.40ドル、22日94.40ドル、23日95.80ドル、24日98.70ドルで推移した。

為替は、8月4日~10日の間、133.02~135.34円の範囲で推移した。8月12日133.29円、15日132.97円、16日133.18円、17日134.31円、18日134.91円、19日136.31円、22日137.17円、23日137.30円、24日136.93円で推移した。

財務省が8月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、99,592円で、前旬比178円安、ドル建て115.50ドルで前旬比1.37ドル安、為替レートは1ドル/137.07円、また、7月の月間原油輸入平均CIF価格は、99,667円で、前月旬比3,791円高、ドル建て116.48ドルで前旬比0.44ドル安、為替レートは1ドル/136.03円。

そのような中で、8月15日時点の価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油も同0.3円の値下がり、灯油は5円の値下がり(18日ベース)であった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.8円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は33.8円となった。また、22日時点の価格は、ガソリンが前週比0.8円の値下がり、軽油も同0.9円の値下がり、灯油は8円の値下がり(18日ベース)であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.0円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は32.4円となった。

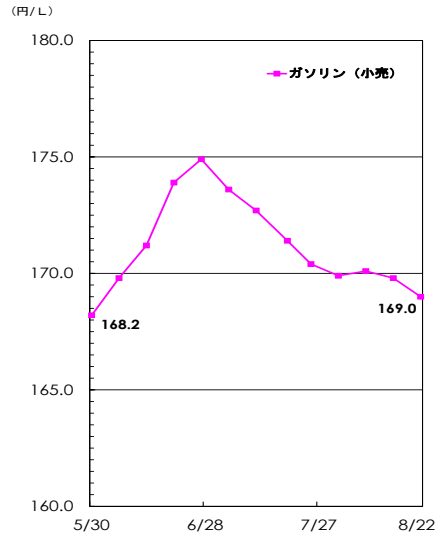
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/14 ~ 8/20	3,247 ▼ -32	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.4 ▼ -0.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/20	9,663 ▼ -31	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/22	92.42 ▼ -0.55	▲ 28.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/22	90.23 ▲ 0.82	▲ 24.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	115.50 ▼ -1.37	▲ 43.74
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	99,592 ▼ -178	▲ 49,690
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	137.07 ▼ -1.34	▼ -26.51
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/22	138.17 ▼ -4.20	▼ -27.32



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	984 ▲ 63	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	813 ▼ -43	▲ -	
	輸出	"	92 ▼ -5	▲ -	
	在庫	8/20	1,393 ▲ 78	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	77.5 ▼ -0.1	▲ 12.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	75.2 ▼ -2.7	▲ 13.0
		(TOCOM/中部)	8/22	77.5 ▲ 0.5	▲ 13.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	169.0 ▼ -0.8	▲ 10.8	

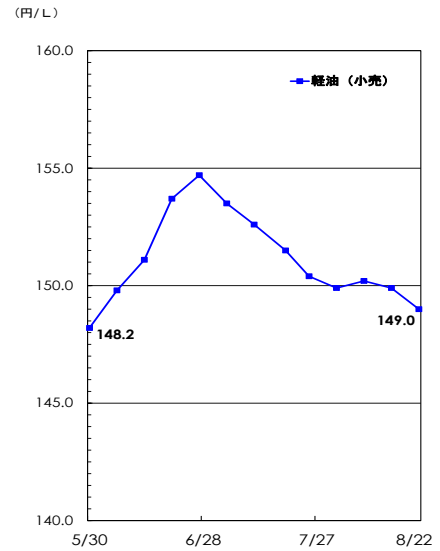
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

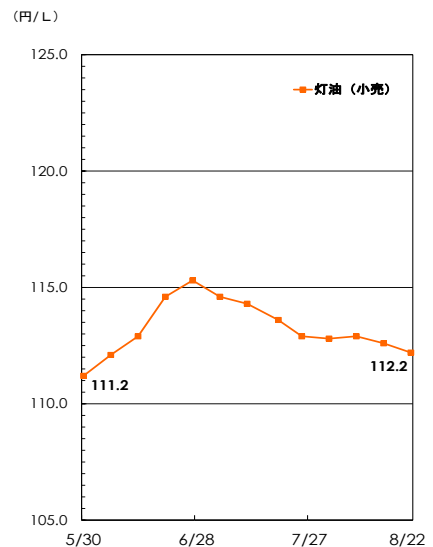
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	857 ▲ 84	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	460 ▼ -70	▲ -	
	輸出	"	213 ▲ 57	▲ -	
	在庫	8/20	1,504 ▲ 185	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	74.7 ▼ -1.4	▲ 8.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	79.4 ▼ -0.7	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	8/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	149.0 ▼ -0.9	▲ 10.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	184 ▲ 28	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	44 ▲ 12	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -45	▶ -	
	在庫	8/20	1,874 ▲ 141	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	74.7 ▼ -1.2	▲ 8.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	74.9 ▼ -6.1	▲ 14.7
		(TOCOM/中部)	8/22	74.5 ▶ 0.0	▲ 12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	112.2 ▼ -0.4	▲ 14.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

先週・今週の石油先物市場は、IEAの需要見通しの上方修正で堅調に始まり、米中の景気後退懸念の拡大・米イラン核合意再建交渉への期待で90ドルを割ったが、サウジの減産示唆発言で回復した。WTI先物の終値は11日の94.34ドルから、15日の89.41ドルを経て、24日の94.89ドルと推移した。

8月17日発表の12日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比710万バレル減と市場予想(前週比30万バレル減)を大幅に上回る取り崩し、ガソリン在庫も460万バレル減と予想(同110万バレル減)を大きく上回る取り崩しであった。さらに米国原油の欧州向け輸出も500万バレルと好調で、米国需給のタイト化観測が広がった。また、8月24日発表の19日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比330万バレル減と市場予想(前週比90万バレル減)を

大幅に上回る取り崩し、ガソリン在庫はほぼ横ばいであった。

EIAによると、8月15日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比10.0セント値下がりの1ガロン3.938ドル(139.2円/ℓ)と9週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比18.2セント値下がりの1ガロン4.911ドル(173.6円/ℓ)と8週連続の値下がりであった。また、8月22日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.8セント値下がりの1ガロン3.880ドル(141.5円/ℓ)と10週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比0.2セント値下がりの1ガロン4.909ドル(179.0円/ℓ)と9週連続の値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、8月12日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比3基増の601基と2週ぶりの増加、また、8月19日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比横ばいの601基となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年8月14日～8月20日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は324.7万klと、前週に比べ3.2万kl減少。前年に対しては28.1万klの増加。トッパー稼働率は84.4%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては7.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.9%増、ジェット/3.1%減、灯油/17.7%増、軽油/10.8%増、A重油/2.3%増、C重油/42.2%増。今週のC重油の輸入は4.5万kl(前週比0.6万kl減)。軽油の輸出は21.3万kl(前週比5.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、軽油、A重油が減少、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.3万kl(対前週5.0%減)と2週連続で減少した。ジェット8.7万kl(対前週58.3%増)、灯油4.4万kl(対前週38.3%増)、

軽油46.0万kl(対前週13.4%減)、A重油11.6万kl(対前週5.9%減)、C重油21.1万kl(対前週16.6%増)。

(単位:千kl)

	今週 (8/14 ~ 8/20)	前週 (8/7 ~ 8/13)	前週比	
ガソリン	813	856	▼ -43	(-5%)
ジェット燃料	87	55	▲ 32	(58%)
灯油	44	32	▲ 12	(38%)
軽油	460	530	▼ -70	(-13%)
A重油	116	124	▼ -8	(-6%)
C重油	211	181	▲ 30	(17%)
合計	1,731	1,778	▼ -47	(-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月20日時点の在庫は全ての油種が積み増しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは139.3万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては12.4万kl少ない。

灯油は187.4万kl、前週差14.1万kl増。前年に対しては21.3万kl少ない。

軽油は150.4万kl、前週差18.5万kl増。前年に対しては30.0万kl少ない。

A重油は70.1万kl、前週差3.8万kl増。前年に対しては3.8万kl少ない。

C重油は178.1万kl、前週差12.7万kl増。前年に対しては13.1万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (8/20)	前週 (8/13)	前週比	
ガソリン	1,393	1,315	▲ 78	(6%)
ジェット燃料	855	854	▲ 1	(0%)
灯油	1,874	1,733	▲ 141	(8%)
軽油	1,504	1,319	▲ 185	(14%)
A重油	701	663	▲ 38	(6%)
C重油	1,781	1,654	▲ 127	(8%)
合計	8,108	7,538	▲ 570	(7.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月9日～8月15日の指標原油価格は前週比でわずかに値上がりし、為替レートも円安の進行により、元売会社の原油コストは、0.5円値上がりしたものと見られる。上記コストアップに先週の補助金額31.4円を加えたコスト上昇額31.9円に、補助金33.8円が支給されることから、次週(8/18～8/24)の元売会社の実質的な卸価格は1.9円の値下げとなった模様。

また、8月16日～8月22日の指標原油価格は前週比でわずかに値下がりし、為替レートは円安が進行したものの、元売会社の原油コストは、2.0円値下がりしたものと見られる。上記コストダウンに先週の補助金額33.8円を加えたコスト上昇額31.8円に、補助金32.4円が支給されることから、次週(8/25～8/31)の元売会社の実質的な卸価格は0.6円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月9日～15日の製品スポット市況は、8月2日～8日平均と比べ、全ての取引・油種で値下がりした。直近週(8/9～8/15)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/2～8/8)比で、ガソリンは1.6円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/9～8/15)に、前週(8/2～8/8)比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は2.4円の値下がりだった。先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

また、8月16日～22日の製品スポット市況は、8月9日～15日平均と比べ、海上・ガソリンの値上りを除いて、他の取引・油種で値下がりした。直近週(8/16～8/22)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/9～8/15)比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油は1.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/16～8/22)に、前週(8/9～8/15)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は1.8円の値下がりだった。先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.7円の値下がり、灯油は6.1円の値下がり、軽油は0.7円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
陸上ローリー4地区平均	今週 (8/16～8/22)	前週 (8/9～8/15)	前週比	
レギュラー	77.5	77.6	▼ -0.1	
灯油	74.7	75.9	▼ -1.2	
軽油	74.7	76.1	▼ -1.4	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
先物価格	期近物/終値[平均]	今週 (8/16～8/22)	前週 (8/9～8/15)	前週比
レギュラー		75.2	77.9	▼ -2.7
灯油		74.9	81.0	▼ -6.1
軽油		79.4	80.1	▼ -0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/16～8/22実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	▼ -2.7	▼ -1.4
灯油	▼ -1.2	▼ -6.1	▼ -3.7
軽油	▼ -1.4	▼ -0.7	▼ -1.0
A重油	▼ -1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の169.8円、軽油も同0.3円安の149.9円、灯油は18%ベースで同5円安の2,027円(1%ベースでは同0.3円安の112.6円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは10都府県、横ばいは4県、値下がり33道府県だった。全国最安値は宮城県の162.0円、その次は埼玉県163.0円であった。他方、最高値は長崎県の183.0円だった。最も値上がりしたのは福井県(前週比0.9円高)、横ばいは富山県等4県、最も値下がりしたのは福岡県(同1.7円安)。次回調査時(8/22)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

また、8月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円安の169.0円、軽油も同0.9円安の149.0円、灯油は18%ベースで同8円安の2,019円(1%ベースでは同0.4円安の112.2円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは4府県、横ばいは2県、値下がり41都道府県。全国最安値は宮城県の160.7円、その次は岩手県と埼玉県の162.5円であった。他方、最高値は長崎県の182.9円だった。最も値上がりしたのは滋賀県(前週比1.0円高)、横ばいは高知県・香川県の2県、最も値下がりしたのは石川県・青森県(同1.8円安)だった。次回調査時(8/29)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (8/22)	前週 (8/15)	前週比	直近高値	
レギュラー	169.0	169.8	▼ -0.8	08/8/4	185.1
灯油	112.2	112.6	▼ -0.4	08/8/11	132.1
軽油	149.0	149.9	▼ -0.9	08/8/4	167.4

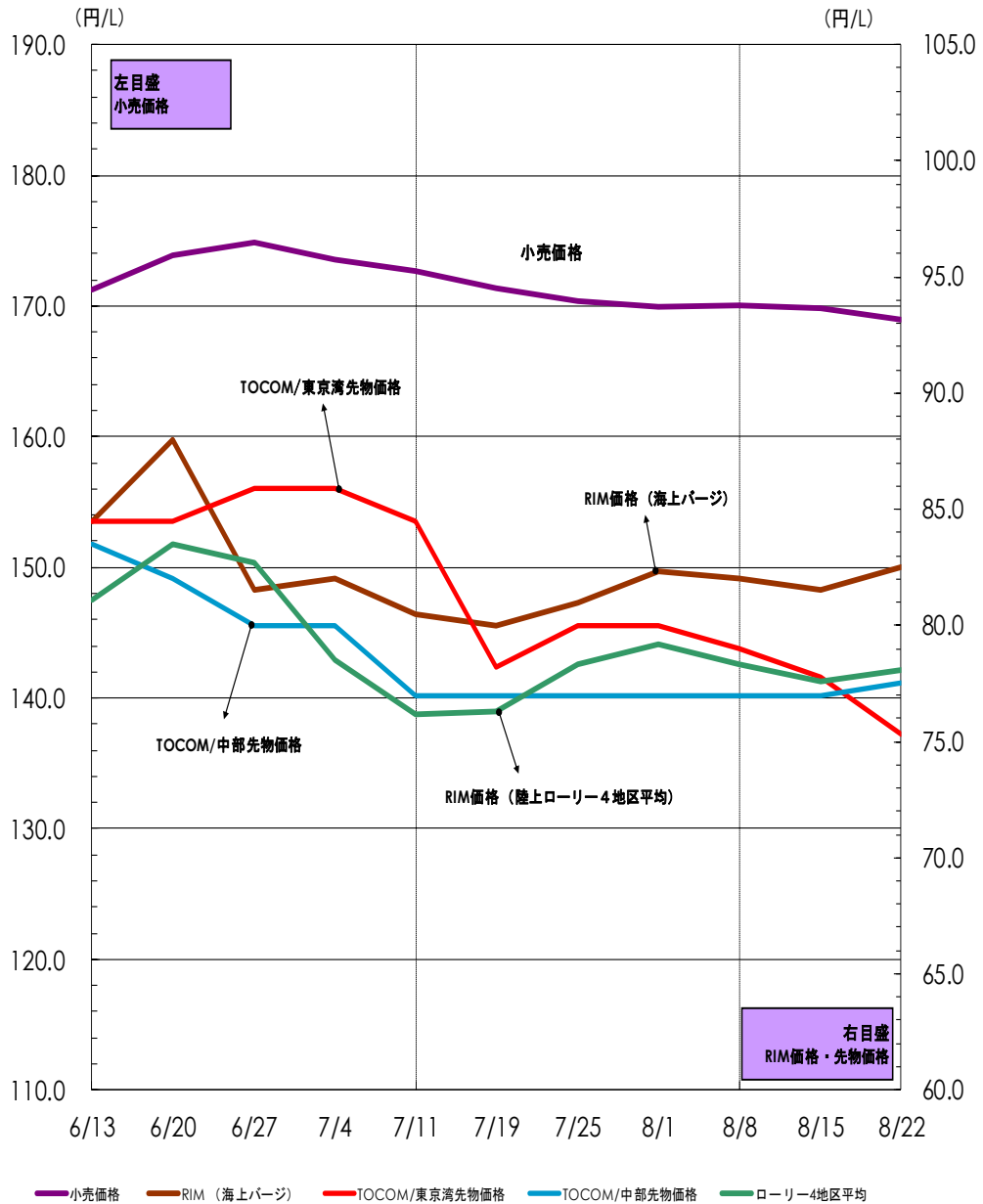
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/6/13 ~ 2022/8/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第21号)の公表は、9/2(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。